

山麓探偵団通信

7月号

ある日とつぜん、山麓ではセミの大合唱がはじまりました。生活感とは別に、体内時計がシツカリ機能するモノたちにおしえられ、わたしたち人間も、「もう、夏ですねえ」などと、あわてて挨拶を交わす今日この頃です。

六月の探偵団は、さいわい天候に恵まれ、戸高雅史団長のもと四名の参加で催行されました。切通しから西丹沢へつづく道沿い、三つの沢が何段にもなつて落ち合うポイントで、男女五名が火を焚き、シュラフで夜を越しました。

◇戸高団長の講評

今回は、アクティブな過ごし方ではなく、あえて定点で、水の流れや鳥のさえずりに包まれ、じつと深まる世界を体験しました。ふだん、言葉を思考の媒体にします。が、身体全体が細胞レベルで反応する機会をめざし、外すのではなく、外れていく醍醐味を共感できればと思いました。

思いがけない沢の合流点で一昼夜を共にし、それぞれがたどったものは、もしかして内面の沢であったかもしれない。

わたしにとつても、印象深い二日間でした。ありがとうございました。

◇参加者の感想

当日は、源流が合流する沢のすぐ近く、二本の木に抱き抱えられた素敵な場所にタープを張って、一泊しました。

TさんやKさんが、重い荷物を運び上げてくださり、Sさんが新鮮な食材や手作りのジャムなどを差し入れてくれたお陰で、山の中とは思えない贅沢な食事を、焚き火越しに沢を眺め、沢の水音と小鳥のさえずりの中でいただきました。

食事と語らいと自然に発生するリズムのひとつときは、延々と続く楽しい時間となりました。

夜中の雨にも、団長がタープを張りなおしてくれたり、気がつくるとSさんが薪をくべていてくれたりと、皆の心遣いで快適に守られた空間の中で休むことができました。

た。

朝になり、ビバークの場所は、もう何日も過ごしたような雰囲気です、多分皆がそう感じて居たと思います。すがすがしい家もしくは、本物の秘密基地になっていました。とても去りがたい気持ちで一杯でした。



＜緑とせせらぎの音を聴きながら一泊＞

行きとは違い、帰りは沢の中を通って丹沢の水に触れながら戻り、登りの道はかなり短縮されましたが、普段の運動不足の私には、なかなかツライもので、戻った後は筋肉痛で大変でした。

とはいえ、清々しい自然と素敵な仲間たちにつきり癒され、ゆったりしつぱなしの二日間でした。

皆さんありがとう！ また、是非参加したいと思います。(T・S)



◇七月の探偵団活動のご案内

へ夏の生きものたちと集う

山中湖畔の大平山周辺を、昆虫とくにセミがご専門の埼玉大学教授 林正美先生に団長をお願いして、散策いたします。

こんなに近くても、今まで知らなかった昆虫の世界を、ごいっしょしませんか？



・日時 7月24日(土)

・集合 午前9時半に芙蓉台

・ペンションはなまりも集合

・参加費 2300円

・持ち物 昼食・雨具・マイカッ

・プ・敷物・任意で捕虫網・

捕虫袋・双眼鏡など

○ 申し込み・問い合わせは三日前までに、電話かメールでお願いします。

◆ 八月はお休みですので、個々に活動を行ってください。

発行 山麓探偵団 事務局

山梨県山中湖村平野一六九八

電話 〇五五五・六五・七〇二三